

Luncheon Seminar 1



The 14th Asian Breast Diseases Association Meeting & Symposium (ABDA)

The emerging role of breast tomosynthesis in Breast Imaging 乳癌画像診断において重要性を増す ブレストトモシンセシスの役割

2016年9月2日(金) 13:00~13:50

スカラエスパシオ ホール

座長

Dr. Chun-Ying LUI

Hong Kong Women's Imaging

演者

植松孝悦 先生

静岡県静岡がんセンター生理検査科・乳腺画像診断科

デジタルブレストトモシンセシス (DBT) により、乳腺組織の重なりが解消し、病変の局所構造の区別が分かりやすくなり、より見るべき位置情報が提供されると言われています。DBTは、乳腺の内部構造を明らかにする低被曝X線照射画像による1ミリスライスのイメージにより、乳腺病変の重なりを解消する疑似3次元デジタルマンモグラフィシステムです。この新しい技術により、従来の2Dマンモグラフィに比べ、より重要な悪性の特徴を可視化することが出来るようになりました。多くのスタディで、DBTは検診および臨床の診断において癌の検出率を向上し、リコールレート(要精検率)を減少させることが示されています。しかしながら、DBTの導入は非常に複雑なプロセスを必要とするためいくつかの問題点も挙げられています。今回は、DBTに関する包括的なレビューと、最新情報をお話したいと思います。今回の説明とディスカッションはSelenia® Dimensions® (Hologic) システムを使用した経験に基づいております。

※講演は英語にて行われます。(同時通訳無)

※整理券の配布はありません。